

寺報

令和4年(2022)正月号第146号(1)

発行 福島市田沢字寺前18
長秀院・仲興寺

TEL 024(548)1240

FAX 同上

ホームページ <http://www.choshuin.jp/>

e-mail info@choshuin.jp/

編集責任・渡辺 祥文



恭賀新禧

専ら祈る所は

正法興隆 修道無難

国土安穩 万邦和平

特に祈る所は

福寿長久 子孫繁栄

諸災消除 諸縁吉祥

新型コロナウイルス感染症の

早期収束・終息を祈願祈禱し、

皆様の健康と無事を念じ、あわせて

本年のご多幸を心より祈り上げます

仏紀二五八八年
邦曆令和四年
西曆二〇二二年



山
文祥
拝



秀憲力生^{りきしろう} 大本山總持寺 瑞世^{ずいせい}拝登

両大本山の瑞世拝登を了じる

大本山永平寺 令和二年三月十七日
大本山總持寺 令和三年十一月二十一日



大本山總持寺 瑞世記念 令和3年11月21日

令和3年11月21日 於 大本山總持寺

させて頂くことであり、導師のできる資格を得たことにもなります。

弟子秀憲は大本山永平寺においては修行中の令和二年三月十七日におつとめしておりましたので、昨年永平寺を送行して（修行を終えて）、直ちに大本山總持寺に拝登すべく申込み令和二年十二月に拝登の予定でしたが、コロナ禍となり、

それもままならず一年以上待つこととなりました。

ようやく感染者減少で受け入れて頂きましたが、随伴（共に参列すること）は許されず、一人で上山しました。私祥文のときは檀家の皆様にもご同道頂き有難かったのですが、焼香師拝登に引き続き、

随伴なしとなつてしまいました。ただ、ようやく瑞世が了じられ、今後「副住職」資格の申請に入らせて頂く予定です。



大本山總持寺 瑞世記念 令和3年11月21日 ichinomiya-shashinkan

当日瑞世拝登の4名の方々と共に

「瑞世^{ずいせい}」とはかつて「一夜住職のおつとめ」ともいわれ、両大本山に拝登し、導師として法要をおつとめする儀式です。「転衣^{てんえ}」といい、資格を備えて墨染めの袈裟^{けさ}から色のついた袈裟をかけることができるようになります、大本山永平寺、大本山總持寺に拝登し、導師法要をつとめ



雲水日記

その四

渡辺 秀憲

風が強く冷たくなり、冬の気配が強くなり年末となりました。皆さまはいかがお過ごしでしょうか。

今回は、永平寺の山門に立った日のことを掲載しました。今回は、新入の修行僧が過ごす「旦過寮」での生活をお伝えしようと思います。

山門にて永平寺に入ることを許された我々は、ある建物の中に通されました。後で知ったことですが、そこは修行僧の生活の場である衆寮（しゆりよう）という建物の一室でした。

これから修行僧としての生活が始まる、かと思いきや。今度は旦過寮（しばらく）過す寮（この意味）という場所で修行僧としての生活に慣れることから始まりま

す。地藏院では着物の着方、お拝の仕方などごくごく初歩の作法を学びました。今度は坐禅の作法や法要の初歩的な作法など、日常で必須の作法を実際に生活しながら覚えるのです。今思えば、旦過寮は永平寺の仲間になるための心の洗濯場でもあります。

我々を指導するのは、山門で我々に覚悟を問うてきた修行僧。彼は「客行（かあん）」という役職で、新入の修行僧を指導する立場にあります。客行の意味は「お客さんをお世話する人」すなわち我々はまだ永平寺の一員ではなく、あくまでお客さんなのです。

修行僧の仲間入りを果たすための特訓が始まりました。起床は午前三時半。今までしたことのない早起きをしてすぐ、

僧堂に向かい坐禅をします。坐禅が終わったかと思えば、今度は法堂（大本堂）

で朝のお勤め。僧堂に戻ったら、坐禅をしながら朝ごはんを頂きます。ご飯を済ませて旦過寮に戻り、着替えて回廊（かいろう）清掃に向かいます。お昼、晩のお勤めが始まるまでは、普段お唱えするお経を暗記する時間。その生活は常に客行さんの指導のもと、心休まる暇は一瞬たりともありませんでした。

当時は今までの生活とのギャップに疲弊し、早く正式な修行僧として認められないかな、そうすれば少しは楽になれるかなと逃げ腰な思考でいっぱいでした。しかし今にして思えば、坐禅と法要に専念していればよい、とても恵まれた時間だったのです。甘ったれた私はこの先何度も「今までの方がよかった」と泣きを見ることになるのでした。次回に続きます。



「ウイズコロナ」ということ (二)

第六波の大波は来るのか？

令和三年七月～八月の第五波は、本当に強烈だったと思います。そもそも令和二年の十二月あたりから自らの身近や知り合いの方々からコロナにより亡くなった高齢者の方々のお話しや罹患した後の様子、回復したけれど後遺症が残り大変なことなどが伝わってきました。

市内の各地の寺院からも亡くなられた方々や遺族の方々の葬儀やその前後の各自の苦悩等も伝わり（個人情報ではなく感染防止の観点から気をつけるべきこと等が伝えられたが）、地域全体のこととなり、高齢者（六十歳以上、八十代～九十代の方々）のリスクがいかに高いかを知ったのでした。寺院も例外ではなく、全国的には感染がおよんだ例がそれなりにあり、防護体制をとらなければなりませんでした。また長秀院・仲興寺としては勿論ですが、渡辺家として九十四歳の母親がおり、外の世界と最も接触している住職が一番危険な存在であることに異論はないのでした。私自身の身の振り方が大きく全てに影響することなので、厳しく律していたのも事

実です。家族に高齢者がいるかいないかも大きな意識の違いとなったかもしれません。またこどもさんをかかえるご家族も同様でした。同調圧力となつて人に厳しすぎたり差別的になつたりしてはならないのですが、油断なく皆で頑張りましょうとするのも私の役目と思っています。

今後は、年末年始にかけて第六波は来るのかという問題であろうと思います。十月～十一月～十二月初旬と感染者は劇的に減つていきます。さまざまなものが動き出し、私も宗務庁へ行くために東京出張もしています。たとえ感染減少の理由不明でもこの状況は有難い限りです。第六波の大波は果して来るのでしょうか。インフルエンザも来るのでしょうか？ヨーロッパも感染拡大中、隣国韓国は十二月初旬現在、たいへんな感染拡大の状況になっています。

結局、予想不能、

万全の心掛けを

知っているだけの医師、看護師、薬剤師等の方々に聞きあたり、予想を聞いているので

すが、

「わかりません。そもそも今なぜこんなに日本の感染がおさまったのかよくわからないのです。でも強烈なパンデミックは三年間ぐらいはあたりまえですからね。これから冬の期間はヤバイのです。方丈さんも皆にいつてください。安心して油断すべきではありません」

結局予想はつかないけれど安心するにはまだ早いということだそうです。ほぼ皆さん同じことをいつています。

「経済も、社会もまわさなければならぬですよ。でもウイルスの変化はそんなこと関係ないですからね。人間の希望的観測は通用しないです」

そうだろうなあと、つくづく思います。

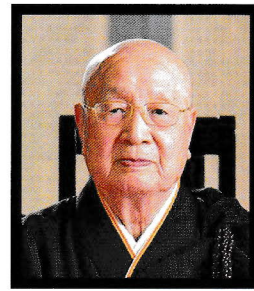
無理をせずに

柔軟に生活する

パンデミックから三年を迎えます。「コロナウイルスよ、いい加減にしてほしい」と言いたいのですが、もともと話を通じるものではなく大自然の中の生命の様相ですから人間が対応するしかありません。感染しない方法も学んできています。無理せず「柔軟心」、一般語化した柔軟な対応で過ごしていきたいと思っています。

(住職拝記)

大本山總持寺 江川辰三禪師様ご遷化



大本山總持寺貫首（住職）であられた独住第二十五世江川辰三禪師様が去る令和三年九月十九日ご遷化（逝去）されました。

故板橋禪師様の後に貫首の位に就かれ總持寺在住十年、曹洞宗の僧俗を教化されました。

令和三年十月の退董法要（引退引継の法要）が予定されておりましたが、その前のご遷化となっていました。大本山總持寺は、明治前までは輪住制という多くの有徳の方々が定期交替で住職をつとめていく方法がとられ、明治後独住制というお一人の住職が長くつとめる形となったため「二十五世」という代数になっています。

江川禪師様はご年齢のためお体がた

いへんになられておられ（昭和三年生）令和三年十月に引退されることを表明しておられました。

満九十三歳であられましたが、本山行持を只管につとめられ雲水を指導してくださったお姿にただ合掌あるのみです。

両大本山の貫首禪師様は、二年交代で宗派の代表「管長」職をおつとめになります。私事ですが、私自身特派布教師として、「管長名代」として、管長様のおことば「管長告諭」をたずさえて全国を巡らせて頂く立場であり、十四年目となりました。（この二年間はコロナ禍のために巡回していません）その間江川禪師様管長の告諭を読み上げさせて頂いてきました。そういう意味でも尊く有難いご縁であったと改めて合掌礼拝するところです。（住職合掌拝記）

写経会

梅花講定例会

令和三年十一月より再開させていただきました。一年振りの皆様がつどい、とても嬉しい気持ちになりました。

行事の中止について

オミクロン株の出現、インフルエンザの動向、三回目のワクチン接種、今後どのようなになるのか、まだ予想がつかえません。寺院行事も無理のないように、クラスター発生とならないように、冬期間行事中止を継続いたします。

各寺院・教区・福島県と、やはり多人数での忘年会・新年会は時期尚早というところで行なわないことになっています。今後とも充分気をつけて運営いたします。

除夜の鐘



一年を振り返り、煩惱を払い
鐘を撞いて新年の無事を祈る

2021年12月31日

午後11時30分打出し

マスク着用にて、係の誘導に従って下さい。
誘導に従って撞いていただきますので宜しくお願
いいたします。

行事案内

★長秀院

十二月三十一日 午後十一時三十分

除夜の鐘打出し

元旦 午前零時三十分

元朝祈禱

★仲興寺

元旦 午前十時

元朝祈禱

以降 一月中、年始回礼

年頭回礼だけでは間に合わな
くなってまいりました。つきま
しては、年末にご挨拶申し上げ
るお宅もでてまいりますので、
何卒宜しくお願い申し上げます。

おねがい

年始回礼中は不在となり
ます。ご相談等の場合はご来
山前に確認をお願いいたし
ます。

電話〇二四一五四八一二四〇
FAX 右 同

年回正当

年回正当のほとけ様方のご
命日をご確認ください。ま
た、ご連絡と貼り出しをご
覧頂きますよう、お願いい
たします。

年回表

一周忌	令和三年(二〇二一)
三回忌	令和二年(二〇二〇)
七回忌	平成二十八年(二〇一六)
十三回忌	平成二十二年(二〇一〇)
十七回忌	平成十八年(二〇〇六)
廿三回忌	平成十二年(二〇〇〇)
廿七回忌	平成八年(一九九六)
卅三回忌	平成二年(一九九〇)
卅七回忌	昭和六十一年(一九八六)
五十回忌	昭和四十八年(一九七三)
百回忌	大正十二年(一九二三)
百五十回忌	明治六年(一八七三)
二百回忌	文政六年(一八二三)
二百五十回忌	安永二年(一七七三)
三百回忌	享保八年(一七二三)
三百五十回忌	延宝元年(一六七三)
四百回忌	寛文十三年(一六七三)
	元和九年(一六二三)